

# 今の時代に必要とされるフィルムとは? 世界に共通する近年の市場変化

これまで本連載では、カーラッピング関連に紐付けた世界の市場について、さまざまな視点から紹介してきました。しかしこの2年間は、コロナ禍の影響が甚大でした。私自身、海外の展示会や講習会、デモンストレーションに行けていないため、直近の世界の変化を伝えるのが難しくなっています。

そこで今回は、国内の市場動向に注目。私が知っている海外情勢も交えながら、読者の皆さんに情報を伝えていく回にしていきたいと思います。

## 環境配慮のニーズに適応しきれない車両装飾フィルムが抱える課題

未だ猛威を振るい、収束の気配が見えないコロナ禍。しかしその一方で、カーラッピングを含むマーキングフィルム業界の動きは、脈々と対流するマグマのように動き続けています。

まず、フィルムの環境配慮に関する話をしていきましょう。現在国内で数多く使用されているマーキングフィルムを含むインクジェットメディアは、その多くが塩ビ製です。そして、最近注目され始めた傷防止のプロテクションフィルムはポリウレタン製になります。カーラッピングで使用するこれらのフィルムは、いずれも剥離後に全て産業廃棄物に分類されます。

近年のサイン市場では環境配慮へのニーズが高まっている背景から、リサイクル可能なオレフィン系などの素材も登場し始めました。しかし、三次曲面に追従し、なおかつ屋外環境に長く耐えられる耐久性が求められる車両装飾分野では、まだ世界中のどこを探してもそのようなフィルムは開発されていません。

もちろん、プロテクションフィルムも同様です。塩ビやポリウレタン、ひい



エレベーター内に内装用化粧シートを施工する前（左）と後（右）。以前は塗装で仕上げていた複雑な表現も、シート貼りによって再現可能になった

では使用後に破棄されてしまう素材は、SDGs の目標である、「12. つくる責任つかう責任」には到底当てはまりません。現在、多くのメーカーが次世代のフィルム開発に励んでいます。この情報は他国の友人から耳にするものの、やはり耐久性の部分をネックとしている印象で、私個人としては、まだ時間を要すると思っています。

とはいっても、市場の環境に対する意識は、今後も一層高まっていくでしょう。これからは、代替可能な素材はいつ開発されるのか、またどう置き換えられていくかが、業界にとって重要な要素になっていくと考えられます。

加えて、従来の素材をいかに破棄せずに再利用していくか、という視点も大切になります。最近では、3R（リデュース、リユース、リサイクル）に加え、本来捨てるはずだったものから全く新しい価値を生み出すサーキュラーエコノミーの考え方も浸透してきました。塩ビやポリウレタンをただ破棄するのではなく、どう再利用していくのか、デザイン段階から考えていく姿勢も、求められているの

かもしれませんね。

あるいはもう少し根本的な話になるものの、「リサイクル可能な素材ならば耐久性が少し劣っていても使用しよう」と、ユーザー側から意識して心がけてもらえるようにするのも解決方法のひとつではないでしょうか。「環境に配慮すべき」という考えを職人側から発信していく、ユーザーの理解を得ていくのも私たちの責務なのかもしれません。我々は、果たして循環型経済の一員となれるのか、今後の市場の動きに要注目です。

## 国内外問わず伸び続ける化粧フィルムの需要

次にカーラッピングはもとより、立体物に対するラッピングの需要について見ていきましょう。本連載で、たびたびオブジェクトラッピングの需要増加を取り上げているように、将来的にはますます脱塗装の流れが強まり、物体にフィルムを貼る時代になるであろうと予測しています。その点から考えても、ずばり今後のカーラッピング市場は、車両メーカーの純正フィルム製品の採用が増していくのです。



化粧フィルムで装飾した海外の建築物と施行中の作業員。欧米でも、内装はもとより、外装用化粧フィルムを活用した建築物の事例は年々増えている

のではないかと私は考えています。

というのも、私たちの看板業界でも、全く同じ流れを踏襲してきたからです。以前は塗装やアクリル樹脂などで製作していた看板類が、この30年近くで一気にフィルムに取って代わられました。また大規模な建築物の外観に関しては、莫大な平米数を必要とするので今ところはまだ塗装に頼らざるを得ないものの、内装においては防炎と意匠性の観点から室内化粧フィルムが多く採用されるようになってきています。

ちなみにこの化粧フィルム、実は開発当初は、日本での採用事例が多く、世界と比べてもリードしていました。

しかしこの5年余りで、欧米含めた海外の採用事例は一気に跳ね上がり、いつしか国内外での差はあまり見られないようになります。今ではヨーロッパを初め韓国、中国の化粧フィルムメーカーがしのぎを削り合い、こぞって製品化を行っています。それだけ各国で、貼る需要が増しているのです。

私は海外に行った時、必ず建物内部

をよく観察しているのですが、少し前の建物ならば、木はリアルウッドを使用し、内装に塗装を使うケースばかりでした。

しかし近年では、質感や耐久性、意匠変更時に容易に入れ替えられる簡易性などの要因から、病院、学校といった公共施設にも、化粧フィルムが多く取り入れられるようになったと聞いています。

以上の点からも、今後も世界中で塗装やリアル素材に代わる化粧フィルムの需要は、より伸びていくと考えられるでしょう。当然、親和性の高いメーカー純正フィルムの需要も、どんどん高まっていくと予測できます。

このように日本に限らず、世界では絶えず少しづつ市場変化が起こっています。そして知らぬうちに大きな変革となり、10年後に気付いたときには、常識となっているのです。ですから皆さんも、このような少しの変化を見逃さず、こまめに市場を観察していきましょう。将来必要とされるであろうマーケットを人知れぬうちに探してみるのも、面白いと思います。

苅谷 伊  
(かりや ただし)

1969年2月3日生まれ。  
89年大学中退後、父の看板業を手伝い始める。07年より、カーラッピング専門のPPF事業部を立ち上げ、車体装飾に注力。日本カーラッピング協会の会長も務める。18年、米・ロングビーチのWrap Olympics優勝など、数々のラッピングコンテストで活躍する傍ら、世界各地で車体装飾のデモンストレーションを実施。各国におけるサイン製作の現場も積極的に視察し、業界の発展に寄与する活動を続ける。



### 資格

- ・職業訓練指導員 第10085号
- ・屋外広告士 第7721号
- ・1級技能士 広告美術仕上げ 第14-061-21-0001号
- ・3M Preferred (US 3M本社認定インストラーラー)
- ・3M Knifeless 認定インストラーラー US0017号
- ・AVERY DENNISON CWI 認定
- ・HEXIS CERTIFIDE INSTALLER GOLD 認定
- ・LLumar PPF JAPAN 認定講師
- ・TWI 認定トレーナー
- ・JAF 国際C級ライセンス

### 主な講師、デモンストレーション実績

- 2017年 中・杭州でラッピング講習会  
中・上海でPPF講習会  
日・SIGN&DISPLAY SHOWでセミナーなど
- 2018年 日・JAPAN SHOPでセミナーなど  
馬・クアラルンプールでPPF講習会  
愛・モスクワでコンテスト審査員、PPF講師  
米・ラスベガスのSEMAショーで実演
- 2019年 日・沖縄県広告美術協同組合で講習会  
尼・スラバヤでのイベントでセミナーなど  
露・モスクワでコンテスト審査員  
日・SIGN&DISPLAY SHOWでセミナーなど  
米・ラスベガスのSEMAショーで実演  
日・名古屋モーターショー FESPA WORLD WRAP MASTERS JAPANでヘッドジャッジ
- 2020年 日・日本カーラッピング協会で講習会  
2021年 日・青森県職業能力開発協会で講習会  
ほか多数

### SNS

フェイスブック (苅谷 伊)  
Instagram @designlab\_inc.wrap\_japan  
Twitter @tadashikariya

株式会社デザインラボ PPF事業部

〒501-6023  
岐阜県各務原市川島小網町2150-24  
TEL/FAX : 0586-89-2332

●企業、団体、個人にかかわらず、カーラッピング、プロテクションフィルムなどについての技術講習会を受付中。小企業の海外展開（販売）の実例を交えた講演会、セミナーの問い合わせもデザインラボまで。